

スタートで呆然と立ち止まる参加者を見て、28年前が懐かしく思い出された。

2014年11月22-23日 東京都伊豆大島
ジオパーク伊豆大島大会



1986年大島大会の様子。当時のスタート風景と、カルデラ内を走る参加者

オリエンテーリングニュース

1986年当時オリエンテーリングニュースという情報誌があった。社長である小林さんとは懇意にしていたが、彼から大島でオリエンテーリング大会を開きたいという打診があった。大島はパーマネントコースがあったので、その地図調査には参加したことがあった。南国らしい藪が多く、しかも平地はほとんど開発されて農地や牧場等になっている。面白いオリエンテーリングは期待できそうになかった。

ところが、下見にいった小林さんが提示したアイデアはカルデラの中でのオリエンテーリング。三原山北側から大島温泉ホテルにかけてのエリアは溶岩に覆われている。オープンではあるが、地形は北欧に勝るとも劣らぬ微地形である。しかも、東の部分は適度に灌木が生えており、これ以上ない超絶テレインだった。

面白かった地図調査

当時は東京からの高速船もなかったので、時間的にも食料のロジスティクスという点でも困難はあったが、調査はその困難を補ってあまりあるほど面白かった。ようやく世界のトップレベルのなんたるかが分かりかけた自分にとっては、地図調査という面ではあるが、そのレベルに自分を引き上げてくれるように感じた。「もう世界のどこでも地図調査のプロとしても食べていける、」オリエンテーリングを生活の糧にしようかと迷っていたこともあり、そう実感できた。

大会当日、スタート枠はわざと灌木地帯の中に設定した。そこから誘導をたどってオープンに出たところにスタートフラッグがある。フラッグについた途端呆然と立ち尽くす参加者たち。地図作成・コースプランナーとして、これほど痛快な瞬間はなかった。

三原山大噴火

大会は好評だった。夏に追加イベントが開かれ、1月に再度イベントが開かれる段取りになっていた。そのイベントに向けて準備を進めつつあった11月のある日、いつものように学食でTVを見ながら朝食を食べている時、そのニュースが放送された。三原山が噴火したのだ。ニュースの映像で、ストロンボリ式噴火の美しい光景が見られた。だが、噴火は山腹へと移り、元町まで溶岩流が近づく事態となった。大島は全島避難し、東京において避難生活を余儀なくされた。

テレインの半分は健在

それから10年たった1996年、カルデラの立入禁止も解除された。単身大島に入ってみた。テレインの半分は溶岩の下に埋もれたが、東側は顕在だった。元のテレインより東側の尾根沢地帯も利用可能なことが分かった。藪とされき地のラビリンスも楽しめる。翌1997年は久しぶりの北欧(ノルウェー)での世界選手権の年である。北欧のテレインへの順応も期待して、大島で二度目の地図作成が行われ、世界選手権選考会も開催された。地図調査の昼時に小高い丘の上で日持ちのよいおかずパンを食べていると、斜面の向こうに広がる海を大型船が横切っていた。島には島時間が流れているが、まだ自分の人生の中にもゆったりした時間が

流れている時だった。

スタートで呆然と立ち止まる参加者を見て、28年前が懐かしく思い出された。

(村越 真)



今も昔も大島の難しさは変わらない。スタートで呆然と立ち止まる参加者を見て、28年前が懐かしく思い出される。